

公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

第11回（2020年度）

事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

I. 事業概況

2020年4月1日から2021年3月31日までの当年度は、公益財団法人化後[※]実質10年目の事業年度である。（[※]2011年3月31日が公益法人移行日のため形式上は11年目であり、報告書も第11回となる。）まずセミナー事業については、事業計画では5回のセミナー開催を予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響で2回のセミナーを中止した為、開催回数が3回となった。助成事業と環境事業については、計画どおり公募および助成を実施した。しかしながら、助成者の活動において新型コロナ感染拡大の影響が出ており、運営対応に苦慮した1年となった。

詳細は以下のとおりである。

1. セミナー事業

セミナー事業は、新型コロナ感染拡大の影響で前年度の第4回経済セミナー（2020年3月17日）を中止としたが、今年度前半も引続きセミナー開催を見合わせざるを得なかった。感染が続く中でセミナー開催には開催方法の見直しが必要と考え、セミナー参加人員を従来の半数に制限する一方、YouTubeによるオンライン視聴可能な形での開催（ハイブリッド開催）として、セミナー視聴者数の維持を図った。その新方式により11月セミナーを再開し、12月、2月の計3回の開催を行った。2月開催分は参加者募集をしたが、緊急事態宣言によりオンライン開催のみへ変更した。セミナーのテーマは、コロナ禍という世界共通の非常事態が続いた為、コロナを題材として今後の社会や企業経営を考える内容で通した。セミナー実施回数は例年より少なくなったが、3回のセミナー全てオンラインによるアーカイブ配信を実施できたため、各回の視聴者数は実質的に前年度と比べて大幅に増加した。各回の詳細は、次の通りである。

(1) 第8回環境シンポジウム

COVID-19とSDGs ～コロナ時代の社会変容～

2020年11月10日 於：シティプラザ大阪 2階 燦の間

会場出席者：30名 YouTube視聴回数：838回（約1か月）

基調講演 「いまデザインすべき根源的な問い

：〈技術でゆらぐ信用〉と〈技術でつながる信用〉」

講師：京都大学総合博物館 准教授 塩瀬 隆之 氏

基調講演 「ムラのミライができたこと、できないでいること」

講師：認定NPO法人ムラのミライ 代表理事 中田 豊一氏

基調講演 「人と社会と環境を豊かにするモデルの探求～Earth Companyの試み～」

講師：（一社）Earth Company 共同創設者・共同代表 濱川 知宏氏

パネルディスカッション

パネリスト：塩瀬 隆之 氏、中田 豊一 氏、濱川 知宏 氏

コーディネーター：阿部 健一氏（財団環境事業選考委員長）

(2) ポストコロナ社会へどう向き合うか～ヘルスコミュニケーションの重要性を考える～

2020年12月15日 於：ウェスティンホテル大阪2階 ソノーラ

会場出席者：60名 YouTube視聴回数：418回（約1か月）

第1部 「持続的成長を目指す経営の実践～HaaS企業への変革～」

講師：塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功 氏

第2部 「コロナ時代の愛、あるいは『いちばん大切な人と

最も距離をとらなければならない時代の哲学』について」

講師：大阪大学COデザインセンター センター長 池田 光穂 氏

パネルディスカッション

パネリスト：手代木 功 氏、池田 光穂 氏

コーディネーター：廣常 啓一 氏 (株)新産業文化創出研究所 代表取締役所長 (財団理事)

(3) 新時代の経営戦略をどうデザインするか～ ポストコロナの大阪・関西万博 ～

2021年2月19日 於：帝国ホテル大阪 3F 孔雀東

会場出席者：緊急事態宣言に伴い中止 YouTube視聴回数：678回 (約1か月)

第1部 「有道得財」

講師：レンゴー株式会社 代表取締役会長兼CEO 大坪 清 氏

第2部 「2025大阪・関西万博に関する最新動向について」

講師：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長 森 清 氏

2. 助成事業

2021年度の助成プログラムとして、「調査研究助成」「国際学術交流助成」「出版助成」を2020年6月8日より7月31日まで公募し、合計122件の応募を得た。選考委員による選考の結果、計20件17,680千円の助成を3月開催の理事会で決定した。助成金は3月29日に交付(交付手続未了者除く)。各助成の内容は、次の通りである。

(1) 調査研究助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野(社会、文化、歴史、政治、経済等)で調査研究活動を行う若手研究者への助成であり、86件の新規応募を受け、選考の結果、継続案件1件500千円を含む14件9,720千円の助成を決定した。

(2) 国際学術交流助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との学術交流促進を目的とした人文・社会科学分野の国際シンポジウム・国際会議の開催に対する助成であり、10件の応募を受け、選考の結果2件3,360千円の助成を決定した。

(3) 出版助成

アジア・オセアニア諸国・地域の人文・社会科学分野(社会、文化、歴史、政治、経済等)に関する研究成果を出版・広報する者への助成で、26件の応募があり、選考の結果4件4,600千円の助成を決定した。

前年度以前に助成を決定した今年度の調査研究助成活動については、新型コロナウイルス感染拡大により海外渡航が1年間ほぼ不能であったため、期初より海外へ滞在していた1名を除いて調査研究活動が出来なかった。今回非常事態として、研究者の支援を続けるため事業期間を1年延長する対応とした。また国際学術交流助成活動についても、予定していた日程で開催が出来ず、次年度への開催延長を認める対応とした。

3. 環境事業

アジア・オセアニア諸国における自然環境の保護及び整備を目的とした支援事業として、現地の人と協働して行う小規模な環境活動へ助成している。今年度より名称を「りそな環境助成」と変更し、2021年度実施事業として2020年6月8日より8月31日まで公募を行い16件新規案件の応募を得た。選考委員による選考の結果、新規案件4件、継続案件6件、合計10件9,990千円の支援を3月開催の理事会で決定した。助成金は3月29日に交付。

進行中助成事業（11件）の新型コロナ感染拡大の影響については、海外渡航不能により活動内容を変更した案件が2件、活動を延期した案件が2件、現地移動制限に伴う活動実施時期変更を実施したものが1件あった。他は、遂行にやや遅延が見られるが予定の活動を完遂できる見込である。

II. 庶務事項

1. 理事会

新型コロナ感染拡大に伴い、今年度開催の理事会はいずれも書面会議による対応とした。

(1) 2020年度第1回理事会（書面開催）

同意書によるみなし決裁日 2020年5月25日

(提案事項)

1. 2019年度計算書類・事業報告の件
2. 2020年度定時評議員会の決議事項、実施方法の件
3. 2020年度セミナー事業計画修正の件

(報告事項)

1. 特定資産運用状況について
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告
3. 各事業の運営状況について

以上、提案事項1から3まで承認された。

(2) 2020年度第2回理事会（書面開催）

同意書によるみなし決裁日 2021年3月2日

(提案事項)

1. 助成事業助成案件採択の件
2. 環境事業助成案件採択の件
3. 選考委員選任の件
4. 臨時評議員会開催の件
5. 寄附金受け入れの件
6. 2021年度事業計画の件
7. 助成事業並びに環境事業の選考基準改定の件
8. 2021年度特定資産運用方針の件
9. 2021年度事業予算の件

(報告事項)

1. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告
以上、提案事項1から9まで承認された。

2. 評議員会

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今年度の評議員会はいずれも書面会議による対応とした。

(1) 2020年度定時評議員会（書面開催）

同意書によるみなし決裁日 2020年6月18日

(提案事項)

1. 2019年度計算書類・事業報告の承認
2. 理事の任期満了に伴う選任

以上、提案事項1から2まで承認された。

(2) 臨時評議員会（書面開催）

議案： 1. 評議員選任の件

同意書によるみなし決裁日 2021年3月18日

3. 選考委員会

新型コロナウイルス感染拡大の状況下であったが、案件選考について選考委員間で面前による議論が必要と判断した為、開催場所を通常より広い会場とし、感染対策を十分行った上で開催した。

(1) 第11回助成事業選考委員会

開催日： 2020年12月22日 於：シェラトン都ホテル東京

- 議案： 1. 助成案件選考の件
2. 2021年度事業計画について

以上、第1号議案にて助成案件が選考され、第2号議案は可決承認された。

※1次選考については、9月23日メール会議にて実施。

(2) 第11回環境事業選考委員会

開催日： 2020年12月18日 於：ホテルグランヴィア大阪

- 議案： 1. 助成案件選考の件
2. 2021年度事業計画について

以上、第1号議案において1案件のみ要協議となり、その他の案件は選考された。

第2号議案は可決承認された。

※2次選考面接については、11月16日にオンラインで実施。

※選考委員会にて要協議となった案件の可否につき、1月18日メール会議で再協議を実施し可決確定。

4. 届出事項

(1) 内閣府への届出等

- 2020年4月16日 代表者変更の提出を行った。
- 2020年6月22日 事業報告等の提出を行った。
- 2020年6月25日 事業報告修正の提出を行った。
- 2021年2月 5日 事業報告修正の提出を行った。
- 2021年3月 8日 2021年度事業計画書等の提出を行った。

5. その他

- (1) 今年度より実施したセミナーのハイブリッド開催は、従来参加できなかった遠方の方もオンライン視聴できるようになり、講師もオンライン参加が可能になりメリットが多かった。次年度もハイブリッド形式を継続し、開催内容の充実を図っていく。
- (2) 助成事業については、制度の全体名称を新たに「アジア・オセアニア研究助成」とすることが決定された。次年度よりこの名称にて公募を行なう。
- (3) オンライン会議ツールとしてZOOMを導入し、環境助成者との事業内容協議や、選考面接、環境事業ワークショップ開催等をオンラインで実施した。またペーパーレス化への対応として、セミナー事業において、チラシや講演資料の印刷廃止、共催依頼書の郵送廃止（メール化）を実施した。次年度は助成事業、環境事業においてもペーパーレス化対応を実施する。
- (4) りそな銀行より、2021年3月18日、公益事業目的として新たに40百万円の追加出捐を得た。

セミナー事業実施状況(2020年度)

		第1回	第2回		
開催日		2020年12月15日(火)	2021年2月19日(金)		
時間		15:00~17:45	15:00~17:35		
場所		ウェスティンホテル大阪2階 ソノーラ	帝国ホテル大阪3階 孔雀東		
テーマ		ポストコロナ社会へどう向き合うか ～ヘルスコミュニケーションの重要性を考える～	新時代の経営戦略をどうデザインするか ～ポストコロナの大阪・関西万博～		
基調講演 タイトル 講師	<p><第1部:講演> 「持続的成長を目指す経営の実践～HaaS企業への変革～」 <講師>塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功 氏</p>		<p><第1部:講演> 「有道得財」 <講師>レンゴー株式会社 代表取締役会長兼CEO 大坪 清 氏</p>		
	<p><第2部:講演> 「コロナ時代の愛、あるいは『いちばん大切な人と最も距離をとらなければ ならない時代の哲学』について」 <講師>大阪大学COデザインセンター センター長 池田 光穂 氏</p>		<p><第2部:講演> 「2025大阪・関西万博に関する最新動向について」 <講師>公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長 森 清 氏</p>		
	<p><第3部:パネルディスカッション> パネリスト:手代木 功 氏、池田 光穂 氏 コーディネーター:株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長 廣常 啓一 氏(財団理事)</p>				
申込者数		100名(会場) ※会場のみ申込受付	60名(会場) ※会場のみ申込受付 ⇒ 緊急事態宣言に伴い会場参加中止		
出席者数		60名(会場) / 418回(web視聴者:約1ヶ月)	会場参加中止 / 678回(web視聴者:約1ヶ月)		
アンケート回答枚数		41名(会場) / 26名(web)	60名(web)		
アンケート回答者業種	会社員、団体職員	53.7%	会社員、団体職員	51.7%	
	会社・団体役員	22.4%	会社・団体役員	21.7%	
	自営業・自由業	7.5%	自営業・自由業	18.3%	
	学校関係者	6.0%	公務員	3.3%	
	無職	6.0%	無職	3.3%	
	公務員	3.0%	学校関係者	1.7%	
	学生	0.0%	学生	0.0%	
	専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%	
	その他	1.5%	その他	0.0%	
	無回答	0.0%	無回答	0.0%	
第1部 評価	印象	非常に役に立った	50.7%	非常に役に立った	37.0%
		役に立った	43.3%	役に立った	59.3%
		あまり役に立たなかった	6.0%	あまり役に立たなかった	3.7%
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%
	具体的感想	<ul style="list-style-type: none"> ・企業維持がいかに困難でどのような判断が必要かを成功失敗談を実例で話された ・過去の成功に固執せず変革を目指すことが大事というメッセージ ・パテントクリアの宿命を逆に企業成長のエンジンとされる話に感銘を受けた ・大変頭の切れる方である。話がわかりやすいし、おもしろいし、説得力がある ・経営者としての考え方やバランス(社会、従業員、顧客、株主)の取り方に感銘した ・HaaSへの考え方が大変参考になった 		<ul style="list-style-type: none"> ・「有道得財」はじめ名言の数々。大坪様の経営哲学に共感をおぼえ感銘しました ・生産性の意味、これがこのセミナーの中心と考えるが、これを詳細に説明戴けた ・レンゴー様が成長されてきた精神を垣間見させていただいたと思います ・これからの会社経営について、守るべき重要な指標を示していただいたと思います ・企業経営者としての覚悟の深さの一端が理解できた ・デジタルとアナログの両方を知る重要さを理解できた 	
第2部 評価	印象	非常に役に立った	11.5%	非常に役に立った	50.9%
		役に立った	62.3%	役に立った	47.3%
		あまり役に立たなかった	23.0%	あまり役に立たなかった	1.8%
		役に立たなかった	3.3%	役に立たなかった	0.0%
	具体的感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナといつまで戦うのか?ーいのちの続く限りだ」が心に響いた ・情報があふれている中で取捨選択できるような先生の言う三つの能力を身に付けたい ・ご自身の経歴をベースに、愛されるお話であったと思った ・後半部分で現在の時代の考え方、行動のあり方を分かり易く教えて頂きました ・フィールドワークの重要性を再認識しました ・講演テーマと内容のずれが大きい。抽象的な概念が多く、判りにくい 		<ul style="list-style-type: none"> ・万博の最新状況を知る貴重な機会となりました ・TEAMEXPOのお話しなど、自身も参加できる事の可能性を感じた ・目指すところの説明を丁寧に説明頂き大変わかり易かった ・会場の見取り図など具体的な計画内容を知ることができた ・気運の醸成が成功への初動であることを再認識をした ・コロナ後の万博の方向性を知ることができた ・企業参加の入り口がわかった 	
第3部 評価	印象	非常に役に立った	23.5%	非常に役に立った	-
		役に立った	64.7%	役に立った	-
		あまり役に立たなかった	11.8%	あまり役に立たなかった	-
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	-
	具体的感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスコミュニケーションとソーシャルコミュニケーションの重要性に関し、現社会の関係の具体例が説明されおもしろいディスカッションだった ・「誰でも分かる説明ができるのが専門家だ」の考え方に納得させられた ・多業種、多文化、多国籍等々のコミュニケーションの必要性 ・コロナ時代での医療・製薬・教育それぞれの領域が繋がるビジョンが理解できた ・「ヘルスコミュニケーション」としての話は、まとめておっしゃっていたように不完全燃焼 			
本日のセミナーへ参加しての感想		<ul style="list-style-type: none"> ・世界的なパンデミックにおいて問題点と課題をあらゆる観点から考えることができた ・ポストコロナ社会への対応について、大変参考になりました ・お二人の講演者の間に入り、ファンリテータが見事にまとめておられた ・会場は感染対策がしっかりされていると感じ、安心して参加できました ・資料も少なく環境に良い取り組みだ。後日アーカイブで視聴できるのも嬉しい ・時節柄ライブ配信頂き大変助かりました 		<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なお話をオンラインで都合に合わせて聞けて良かった ・今回初めて参加させて頂いたが、資料の見せ方なども良く、とても良かった ・本日の情報を社内で共有したいため、資料を頂けるとの事で助かります ・内容、画像、音声が良い良かったです ・タイムリーなテーマとキャスティングが素晴らしい ・オンラインになったが、予定通り開催していただけて感謝 	

第8回環境シンポジウム実施結果

＜開催概要＞

開催日	2020年11月10日(火)
時間	13:00～16:20
場所	シティプラザ大阪 2階 燦の間
テーマ	「COVID-19とSDGs」～コロナ時代の社会変容～
基調講演①	「いまデザインすべき根源的な問い・〈技術でゆらぐ信用〉と〈技術でつながる信用〉」 京都大学総合博物館 准教授 塩瀬 隆之 氏 <リモート参加>
基調講演②	「ムラのミライができたこと、できないでいること」 認定NPO法人ムラのミライ 代表理事 中田 豊一 氏
基調講演③	「人と社会と環境を豊かにするモデルの探求～Earth Companyの試み～」 Earth Company 共同創設者、共同代表 濱川 知宏 氏 <リモート参加>
パネルディスカッション	コーディネーター:阿部 健一 氏 パネリスト:塩瀬 隆之 氏、中田 豊一 氏、濱川 知宏 氏

＜アンケート結果＞

出席者数	30名(会場) / 838回(web視聴者・約1ヶ月)		本日の環境シンポジウムへ参加しての感想	
回答枚数	30枚(会場) / 32枚(web)			
回答者業種	会社員、団体職員	51.6%	<ul style="list-style-type: none"> 知らない分野の話も自分と関係あるなど感じられてとても面白かった 阿部氏の司会ぶりが良く、また、スピーカーがそれぞれ個性豊かで議論に厚みが出た SDGsの考え方や取り組みへの思いは参加者により様々だった。多様性を活かすが本日の成果 今日は人間としての本来の姿を見る気がしました 進行や音声、画像(映像)の共有などストレスなく、講演スライドと講演者の映像もうまく重なっていて、大変参考になりました 遠隔地の特別な専門家との議論が聞けることは、新鮮な喜び。「現代人はパソコンを持った石器人」の言葉も思い出される オンラインで参加できるのは非常に助かるので、今後も続けて欲しい 席の間隔を十分取っていただき、コロナ対策を意識した運営であり安心してセミナーを受講できました 「COVID19時代の社会」、「バックキャストिंग的な思考で問いかける。」のキャッチでYouTube視聴しましたが、各講演の内容が、残念ながら私の思っているものとかけ離れていました 「SDGs」といった用語はあまりでなかった 	
	会社・団体役員	17.7%		
	自営業・自由業	16.1%		
	学校関係者	3.2%		
	無職	3.2%		
	学生	1.6%		
	専業主婦(夫)	1.6%		
	その他	3.2%		
(1)基調講演①(塩瀬隆之氏)評価			(2)基調講演②(中田豊一氏)評価	
非常に役に立った	35.6%	非常に役に立った	70.0%	
役に立った	57.6%	役に立った	28.3%	
あまり役に立たなかった	6.8%	あまり役に立たなかった	1.7%	
役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	
＜主な具体的意見＞			＜主な具体的意見＞	
<ul style="list-style-type: none"> 「AかBかでなく、その中間に答えが数多くある」というコメントに共感を持った。論理でなく信用・信頼の作り方に技術が加わったということに現状を再認識し、その欠点の修正を考えさせられることになった 技術でつながる、ゆらぐ信用 新しい技術のため、今まで得られなかった信用が生まれるようになったが、不信なものも生まれる。でも、技術のせいではなく、本質を問う必要があるという点がおもしろかった 拙速な答えを求めすぎ、というのはほんとうに、その通りと思いました。コミュニケーションデザインを理系の先生が主導されていることも驚いた 技術を扱う側の「人」がしっかりと技術テクノロジーと真正面から向き合っていかなければいけないのだと痛感させられた 技術者経験からの視点と異質の見方・読み方が新鮮な刺激になった 技術の進歩がもたらす現代的な課題を考える大きなヒントになった 仮説の提起の主旨が十分理解できなかった。紹介事例の脈絡が読めなかった。理論にこだわりすぎる 経験に基づいていないので、内容が抽象的 			<ul style="list-style-type: none"> 「メタファシリテーション」が新鮮で、事実と意見を取り違えていたり、失敗した事実に対して「なぜ」と聞いてみたり、自分自身でやってしまっていることを考えさせられました。事実のみを聞き出して積み上げるスキルを身に付けたいと思った トヨタの改善は「なぜ」を5回繰り返して、根本問題を発見する。「なぜ、どうして」を使わない メタファシリテーションは、新鮮である。TQCでどう利用できるか、考えてみたい 途上国での苦労や指導の難しさに共感できた。同時に、同一目線、言葉の使い方や支援に差がでることについて認識できた。(数十年前、JOCVだったことをふまえて) メタファシリテーションとしての考え方はおもしろい。サイモン・シネックの「Whyから始めよ」の逆説。さて、どこまで通じるか？異文化コミュニケーションの世界への一投！ ムラのミライの活動について興味があり、またメタファシリテーションの重要性についてもあらためて感じられる機会だったため 「できていないこと」の深掘りをすると面白い展開になっていくと感じました。役に立たなかった、という評価というよりも、時間切れで惜しかったと思います 	
(3)基調講演③(濱川知宏氏)評価			(4)パネルディスカッション評価	
非常に役に立った	42.9%	非常に役に立った	49.0%	
役に立った	50.0%	役に立った	49.0%	
あまり役に立たなかった	5.4%	あまり役に立たなかった	2.0%	
役に立たなかった	1.8%	役に立たなかった	0.0%	
＜主な具体的意見＞			＜主な具体的意見＞	
<ul style="list-style-type: none"> バリの雰囲気、濱川さんの穏やかな雰囲気とソーシャルな講演内容がマッチしており、良い講演でした。ソーシャルインパクトは難しいと思いますが、アクティブに進めておられて頭が下がります。今後更にもどのように進めていけるのか、興味があります 日本には恵まれた環境なので気が付かないことが多いが、海外(特にアジア)に行くと、途上国との違いに気がつく。人間として守られるべきと考えられることにつき、協力している所が素晴らしい 「援助は上から目線。結果を求められない」が当たり前と言われて、おかしかったと感じたことが正しかったと、納得。地域援助を70%寄付、30%自前の稼ぎで行うのは、正しい数値目標と感じた 今まで取り組みではなく、winwinの関係が構築できる仕組み作りを進めている。まさに、SDGsに期待される考え方であり参考になりました SDGsの目標を実践されていてすばらしい。NPOの進行形を指されたのが印象的。新しいビジネスモデル 海外支援の新しい方向性を知った 彼らが提案するプログラム(コンサル?)は呼び方は今風だが、内容が未来型か疑問である。きれいにまとめたプレゼンだが、多分、さわりの概要紹介で深みがなかったせいかもしれない 			<ul style="list-style-type: none"> 分野や活動は違えど向かう方向や軸、ずっしりとする根本的なものはみなさん同じかと思われ、最前線で実際に活動されている大人の考えをたくさん聞くことができ貴重な機会だった 塩瀬先生の仰った「我達人」は良い言葉だと感じました。オンラインで人と会う機会が減り、無機質な人間関係になりがちで、改めて好奇心を持って人と会うことの大切さに気が付かされた 必要となることを選択が大切だと思った。それと全て楽しんでやるのが大切だと感じた。加えて塩瀬さんのSDGsの考え方がとても斬新で良いと思った。若い人へのバトンタッチは早いほど大切である 最初と最後の話に出たSDGsは、日本ほど海外では関心事になっていないことに驚いた。また、3人の話はそれぞれが違うことに取り組んでいるようにつながっていることにも驚いた 自分の好奇心や楽しさを中心とした「Be」を出発点にして「Do」、「Have」を考える思考法 小生の視点が養われました。違った視点、広角な視点、俯瞰的視点 3様の考え方がどのようにつながっているか、すばらしくまとまったと思います 皆さんのお人柄が影響されていると思いましたが、全体的にマイルドで優しくかったですね。オンラインで聞いていると、もっと熱があつてよかつたと思います。もっと着地しない議論にできたのでは?とも思います 	

2021年度助成 実績一覧表

調査研究助成

《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
第二次世界大戦後のラオスにおけるナショナリズムと連帯の可能性 ：東南アジア、フランス植民地帝国を中心に	赤崎 真耶	モンペリエ第三(ポール・ヴァレリー)大学 第58博士学院博士後期課程	500,000
プラナカン・インディアンとは誰かーマレーシアの「三大民族」集団の 狭間に生きるマイノリティの人類学的研究	柏 美紀	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士前期課程2回生	900,000
ニューカレドニアにおける場所性とその現代的変容に 関する映像人類学的探究	Zoe Selane Schellenbaum	東京藝術大学大学院 美術研究科 油画専攻 博士3年生	970,000
排除のダイナミクス ー1980年代におけるインドの政党とマイノリティ	岡山 誠子	ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院 (SOAS)博士課程	850,000
外地日本における女学生教育・文化の研究 ー「満洲」の日本人女子教育に着目して	梅原 優	筑波大学大学院 人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻3年	500,000
都市開発による政治変動 ーフィリピン・マニラ郊外への移住政策と政治の変化に着目してー	藤原 尚樹	神戸大学 非常勤講師	750,000
電信事業から見る20世紀初頭の中華民国の地方と革命勢力	白鳥 翔子	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 博士後期課程1年	420,000
都市における自己変容の経験としての芸術実践 ：ラオスの首都ビエンチャンにおける、若手アーティストに関する人類学的研究	大村 優介	東京大学大学院 総合文化研究科 博士後期課程	660,000
1960年代以来インドネシアにおける解放の神学と 華人神学の伝統の生成に関する人類学的研究	王 作造	京都大学大学院 文学研究科 博士後期課程	600,000
カンボジア・クメール人の食の存在論 ー食と健康を巡る知識・実践と栄養状態改善のための国家事業ー	稲垣 美帆	京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程	580,000
中国における新都市住民の社会的移動 ：都市に移住した失地農民に着目して	藤 媛媛	東北大学 東北アジア研究センター 助教	570,000
戦後日本社会の国民再編成過程における「引揚者」の主体形成のポリティクス ー満洲からの「引揚者」を中心にー	劉 コウ	名古屋大学 人文学研究科 博士後期課程	520,000
物流と交易から見た五胡十六国時代像の再検討	峰雪 幸人	早稲田大学文学研究科 博士後期課程	500,000

《共同研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
台湾法における適時的・継続的な行政活動の更新に関する研究 ー比較法研究の新たな地帯を求めてー	児玉 弘	佐賀大学教育研究院 人文・社会科学域経済学系 (経済学部経済法学科専任)准教授	1,400,000

助成金合計
14件 9,720,000円
(2021年3月助成実施)

2021年度助成 実績一覧表

国際学術交流助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
「アジアの市民社会」 :ホノルル国際会議－市民社会の多様性を探る	小川 晃弘	メルボルン大学 アジアインスティテュート教授	1,900,000
The 5th UKNA International Symposium "Gentrification in Asian Cities"の共同開催	任 哲	ジェトロ・アジア経済研究所 研究員	1,460,000

助成金合計
2件 3,360,000円
(2021年3月助成実施)

出版助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
パキスタン市民社会の歴史的起源を解明した、申請者の博士論文 『近代ムスリム市民社会の成立と「女性問題」 －英領パンジャーブにおけるイスラーム擁護協会の事例から－』の刊行	水澤 純人	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教	1,200,000
How the Red Star Rose: Edgar Snow and Early Images of Mao Zedong (赤い星は如何にして昇ったか－エドガー・スノーと毛沢東の初期イメージ)	石川 禎浩	京都大学人分科学研究所 教授	1,000,000
ハレルヤ村の漁師たち－信仰と癒しとスリランカ内戦	初見 かおり	九州大学 広報本部学術推進准主幹 (サイエンスコミュニケーター)	1,200,000
渡豪日本人戦争花嫁の語り 『Michi's Memories: The Story of a Japanese War Bride』の日本語版出版	田村 恵子	オーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 非常勤講師	1,200,000

助成金合計
4件 4,600,000円
(2021年3月助成実施)

2021年度環境プロジェクト助成 実績一覧表

活動題目（企画名）	申請者	研究者所属	助成金額
ベトナム・メコンデルタにおける有機農業の実践と青少年への環境教育による環境保全型の地域づくり	伊能 まゆ	特定非営利活動法人 Seed to Table 理事長	1,000,000
シンハラージャ森林におけるエコツーリズムを通じた環境保全	高橋 知里	特定非営利活動法人 パルシック	1,000,000
ミャンマー中央乾燥地域における青少年を対象とした植林活動と環境教育の推進	永石 安明	公益財団法人オイスカ 事務局長	1,000,000
モンゴル国における生物多様性保全教育センターおよび栽培基地の構築	思 沁夫	一般社団法人北の風・南の雲 代表理事	990,000
動物を通じて次世代の子どもたちが考えるボルネオの自然環境問題～マレーシアと日本の子どもたちの対話型遠隔教育	森井 真理子	認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン 理事	1,000,000
ミャンマー・シャン州インレー湖周辺地域における水質浄化啓発活動―「みんなで湖を守る」を形にするために―	柴田 京子	特定非営利活動法人 地球市民の会	1,000,000
インドネシア・南スラウェシのエビ養殖地域における住民主体の環境保全活動モデルの構築	野川 未央	特定非営利活動法人APLA 事務局長、理事	1,000,000
持続可能な里山地域づくりに向け、バイオガスプラント設置による有機肥料生産から動物糞の適用利用システムと、ゴミ分別によるゴミのリサイクルシステム導入から資源循環をめざした地域環境システム形成活動	熱田 典子	公益社団法人 アジア協会アジア友の会 副事務局長	1,000,000
交流を通じて自走するカンボジア・東ティモールの持続的な環境教育	下田 寛典	合同会社PLC 代表社員	1,000,000
カンボジアにおける資源循環型農業の確立をベースとした教育支援システムの構築と自立できる農家の育成	小関 皆乎	「藪の傍」代表	1,000,000

助成金合計
 10件 9,990,000円
 (2021年3月助成実施)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項は無い。